

学生インタビュー

蝦名 健太さん（理工学部数物科学科）

Q. 自己紹介からお願いします。

A. 数物科学科 1 年の蛭名健太です。青森県立大湊高校出身です。宇宙物理学に興味があり、浅田先生のところで勉強したくて弘前大に進学しました。高校の物理の先生が浅田先生の研究室の OB で、浅田先生のことを勧めてくれたのが大きいです。将来は大学院に進学して宇宙のことを研究したいと考えています。

Q. 試行科目の「データサイエンス基礎」を受講したのはなぜですか？

A. これからの時代、データサイエンスは知っておかないといけないと思ったからです。

Q. 「データサイエンス基礎」を受講した感想をお願いします。

A. 授業は丁寧で分かりやすかったです。特にエクセルを操作してクロス集計や回帰分析などを行えたことや、Python というプログラミング言語に触れる機会もあり、非常に有意義な講義でした。

Q. 試行科目の「データサイエンス発展 I」を受講されたのはなぜですか？

A. 「データサイエンス発展」の担当の紅林先生が、「データサイエンス基礎」の授業にやってきて「しっかり取り組めば、単位は取りやすいです。難しくありません」と履修を勧めていたのもありますし、「データサイエンス基礎」の授業で Python に興味をもったこともあります。

Q. 「データサイエンス発展 I」の感想は？

A. 先生の宣伝通り難しくありません。Python を全く知らなくてもついていける内容になっています。オンデマンドコンテンツで学んでいくのですが、非常に分かりやすく、何より自分のペースで進められるのがいいです。

Q. 授業の満足度はいかがですか？

A. 正直、もうすこし課題の量を増やしてもよいと思います。でも、先生も「難しくない」と約束した手前、急に課題の量を増やすのも悪いと思っているのかも知れません。

Q. もっと難しいほうがいいですか？そうすると受講者が減ってしまうと思いますが。

A. 自分は課題がもっと多くてもいいのですが、やる気があれば自分で学ぶことができるので、簡単にして受講者数を多くしたほうがよいと思います。

Q. 後輩に「データサイエンス発展」の履修を勧めますか？

A. 勧めます。単位が取りやすいこともありますが、Python はこれから研究していく上で必須のものなので、やっていたほうがいいです。